



エレクトロヒートと多様性

清水 成信 一般社団法人
日本エレクトロヒートセンター 理事

昨年10月、名古屋で生物多様性条約締約国会議（COP10）が開催された。それまで「生物多様性」などという言葉はあまり馴染みがなかったのだが、支援実行委員会の方によれば、こういうことだそうだ。

「人は皆違うようにできている。仮に皆同じ性格・同じ身体性能だとすると、一時的には効率がいいが環境が変わると皆滅びる。そうして滅びた生物も実際に多い。反対にバラツキがあるものは環境変化の際、一部は滅びても他が生き残る。その繰り返しが生物の歴史であり、性格や体格の違いは偶然ではなく、あえて作り出された必然である。」

なるほど、考えてみれば会社組織というのも多様性の上に成り立っている。弊社の多様な生物、いや社員たちも、さまざまな考えをお互いぶつけながら、日々業務に励んでいる。もし全員が同じ性格で、一樣に同じ方向を向いていると、ある局面で著しい業績向上の可能性もあれど、会社として環境変化に対応できないリスクも大きいということか。さらに身の回りを見回せば、実にさまざまな多様性が溢れている。例えばゴルフ。勢いよく飛ばす者、緻密に刻んでいく者、各々の性格を反映した多様なゴルファーがいる。色々な性格があってこそゴルフは面白い。ちなみに私のショットが真正面のフェアウェイをあえて避け、右に左に飛んで行くのも、ひとえに遠慮がちな性格によるものと自己解釈している。

さて、本題に戻ると、エレクトロヒートもまた、多様性を拡大しつつ日々進化を続けている。この進化は多様性を持った2つの側面から支えられている。そのひとつはシーズの多様化である。例えば、ヒートポンプひとつを挙げてみても、高温対応化、低温同時利用化、熱風発生対応化など、著しい性能の進化とともに、機能・選択肢の多様化が進んでいる。これは多くの開発者、販売担当者、その他多くの方々のご尽力の賜物であり、また今後ますます多様性の開発が広がることを願ってやまない。

もう一つの側面はニーズの多様性である。例えば洗浄加温でも、ワーク形状、温度、時間など、個々の違いは多岐にわたる。こうした違いを的確に把握し、適切なシーズをお客さまに提案できるかが、エレクトロヒートを発展させる上で重要なポイントと言えるだろう。昨年9月に開催した弊社のエネルギーソリューション展示会「ENE-WAY2010」では、洗浄や乾燥工程等、産業分野でのヒートポンプというシーズの「使い方」をコンセプト展示し、さまざまな業種における沢山のご来場者の方々にご関心を持って頂いた。これは環境性・省エネ性に優れたエレクトロヒートに対する、多様な潜在ニーズの表れと言えるのではないか。

エレクトロヒートの発展には、シーズ開発とニーズ把握の両方が重要である。ニーズが新しいシーズの可能性を生む。そして、新たなシーズはまた新たなニーズを呼び覚ます。多様なシーズとニーズのマッチングにより、相乗的に発展していく。こうした中、日本エレクトロヒートセンターがその発展に果たすべき役割はますます大きい。

低炭素社会に向けて社会が大きく舵を切り出す中、環境性に優れ、現場のニーズにマッチした多様なエレクトロヒート技術が「適者生存の法則」に従い、今後ますますの進化と繁栄を続けることを期待したい。